

# 旧樺太（南サハリン）神社跡地調査報告

富井 正憲  
TOMII Masanori

藤田 庄市  
FUJITA Shoichi

中島 三千男  
NAKAJIMA Michio

## はじめに

第3班「環境と景観の資料化と体系化」のうちの、「環境に刻印された人間活動」を「海外神社」を通して行っている本調査研究グループは、近代における日本人の海外進出、日本の植民地支配・勢力圏の拡大に伴って、進出した日本人や日本国政府によって建てられた「海外神社」とその環境に関する資料を収集し、かつ戦後の現存・現況跡地調査を行ない、データベースを作成して、戦前戦後の海外神社の資料化を図ることを目的としている。また、その資料を用いて環境変容を通時的、共時的に考察し、併せて環境に刻印された人間活動に関する資料の体系化を図ることを目的としている。

本稿は海外神社の戦前戦後のデータベースを作成するため、研究スタートの初年度に行ったロシア南サハリン地区（旧樺太、以下樺太と表記）の現地調査を中心とした作業内容の報告である。

## 樺太の神社について

第二次大戦前に海外に建設された神社の総数は、現在判明するものだけでも1640社にのぼる。そのうち樺太には128の神社が建設された<sup>(1)</sup>。

樺太における神社の歴史を簡単に概観すれば、日露戦後の樺太日本領有後、樺太庁は移住者の増加に伴い、神社を創建し、またそれを企図する人々が出現したために、敬神思想を涵養し、崇祖の信念を振作するために、1910（明治43）年に全島鎮護の大祀として官幣大社樺太神社を創立し（鎮座は翌年）、さらに豊原神社及び真岡神社の創立（創立とは樺太庁より認可を受け、公認神社となる事）を許可した。以来各地に神社の創建・創立をみることとなった。神社の創立に関しては成文の法規が無かったが、1920（大正9）年12月、初めて庁令第四十八号をもって「神社規則」を制定し、崇敬者となるべき者30人以上の連署を出願させ、祭神その他神社としての一定の条件を具備し、維持経営確実なものに限り、許可をすることとした<sup>(2)</sup>。

樺太における神社は官幣大社樺太神社を除いては何れも樺太庁によって創立を認可された無格社であるが、1928（昭和3）年11月5日、庁所在地にある豊原神社が県社に列せられ、その後1930（昭

和5)年に亜庭神社，1934（昭和9）年に真岡神社が県社に列格されるなど，敗戦までに，合わせて7社が県社に列格された。

樺太における神社の基本資料としてまとめたものは，戦前出版された1935（昭和10）年6月の大日本神社大鑑編纂部発行による『大日本神社大鑑（北海道，樺太版）』と，同じく1935年に樺太の亜庭神社の社司山田信義個人が作成した『樺太神社一覧』の2冊が挙げられる<sup>(3)</sup>。また，戦後の樺太神社に関する既往研究として，国内では佐藤弘毅の「戦前の海外神社一覧I——樺太・千島・台湾・南洋——」<sup>(4)</sup>と，前田孝和の「樺太神社資料」<sup>(5)</sup>の2稿の論文がある。また，角幸博・井潤裕らによって樺太の近代建築の調査が精力的に行われているが，その中にも神社や奉安殿についての記述がある<sup>(6)</sup>。さらにロシア側の研究として，今回われわれの調査に同行していただいたイゴール・サマリン氏の現地調査を中心とした「Синтоистские Храмы Карафуто」<sup>(7)</sup>が挙げられる。

佐藤によれば，戦前における樺太の神社の総数は現在判明するかぎり128社となる。その社格別の内訳は官幣大社1，県社7，指定護国神社1，無格社117，崇敬社1，公認不明1である。また市庁別の神社数は豊栄32社（官1，県社2，指定護国神社1），大泊41社（県社1），本斗9社（県社0），真岡14社（県社1），泊居18社（県社1），元泊9社（県社1），敷香5社（県社1）となる。この佐藤の研究をもとにして作成したのが，文末の図1「樺太における支庁別神社数」と表1「樺太における海外神社創立年表」である。

今回の樺太における旧神社跡地調査は，限られた日数から，対象地域をロシア南サハリン（旧樺太）の首都ユジノ・サハリンスク（旧豊原）を中心に，ホルムスク（旧真岡），チェーホフ（旧野田），トマリ（旧泊居），コルサコフ（旧大泊）とした。（文末ルート図2参照）

この5地域のうちから，神社の格に配慮して調査神社を官幣大社樺太神社（豊原），指定護国神社の樺太護国神社（豊原），県社豊原神社（豊原），県社真岡神社（真岡），県社亜庭神社（大泊），無格社泊居神社（泊居），無格社野田神社（野田），無格社北辰神社（豊原），それに1つの表忠碑（大泊）の合計9件を抽出し，各事例ごとの戦前の写真，絵葉書，図面と，位置を確認できる当時の市街地図を準備し，現況の地図は現地で入手することとした。

## 調査の概要

調査期間は2003年10月8日から13日までの5泊6日である。参加者は富井正憲，藤田庄市，中島三千男，大里浩秋，孫安石それにロシア側研究者としてサマリン氏（Mr. Igor Samarin，ユジノ・サハリンスク郷土誌博物館所属），通訳の合計7名である。現地において現在の市街地図を入手することは不可能であったが，サマリン氏の案内で1台の車を移動させながら，調査シートをもとに跡地を確定し，戦前・戦後の名称・所在地・沿革・施設内容・配置・周辺環境・ヒアリング・所見・写真・地図・図面チェック等を記載していった。その結果，今回の調査総数は予定した9件をはるかに超えて，21件を数えた。その内訳は神社12件（内訳は官幣大社1，指定護国神社1，県社3，無格社7），忠魂碑1件，戦勝記念碑1件，現存奉安殿7件である。作成調査シートはこの他に墓地1件，市内現存建物3件を加えて26シート（樺太神社のみ1件2シート）となる。また藤田が撮影したスライド写真は2100枚に及ぶ。主要なシートは文末に添付することとする。

今回調査した、樺太における神社等の戦前と現在の調査結果の内容を官幣大社、指定護国神社、県社、無格社、忠魂碑、戦勝記念碑、現存奉安殿の順に次に示す。(以下の地名は、全て日本統治下の旧地名である。また、神社の概要の記述については、特に注記した場合を除いて、佐藤弘毅、前田孝和論文及び『樺太庁施政三十年史』に拠った。)

【官幣大社樺太神社】(調査シート No. サ-017, No. サ-018, No. サ-019)

樺太神社は豊原市豊原町旭ヶ丘に位置する。戦前における市内から境内までの景観を、当時を描写した文章から引用すれば、「豊原駅前から真っ直ぐにのびる神社通りを、駅から2キロ余り、右手に豊原市役所・白樺御殿と呼ばれた樺太庁長官官邸、左に樺太庁の豪壮な建物を見やり、次にまた右手に豊原高等女学校・博物館・豊原中学校と続くと、やがて樺太神社の石段下に出る。石段を登ると、そこは旭ヶ丘の中腹で、境内からは豊原市街が一望にできる絶好の地である。参道の並木は緑濃く、境内の吉野桜は季節になると市民の目を楽しませた。」とある。<sup>(8)</sup> 樺太神社の参道並木は初代樺太庁内務部長中川小十郎氏の提案で植えられたもので中川並木と呼ばれた。<sup>(9)</sup>

1910(明治43)年8月17日内閣告示第8号において樺太神社を豊原に創立することを決定し、翌年8月内閣告示第7号により同月22日に鎮座祭が行われた。祭神は大国魂命、大己貴命、少彦名命の「開拓三神」である。境内の建物は本殿・拝殿・渡殿、社務所、祝詞舎、手水舎、神饌所合計200余坪、境内地21716坪に、山林・神圃用地等合わせて38万5千余坪に及ぶ。設計は朝鮮神宮をも担当した当時東京帝国大学教授伊東忠太である。『大日本神社大鑑(北海道、樺太版)』による境内及び社地の説明は「社境は豊原町東方旭ヶ岡の半腹にありて常緑樹森々として伸び幽邃閑雅、豊原全市街及南樺太の重畳たる山脈を一眸に収め眺望絶佳の勝地たり」<sup>(10)</sup>とある。

敷地に現存する建物は校倉様式の宝物殿(コンクリート造建物1棟。扉も既に無く、内部はがらんどろで不使用)のみである。その他放置された燈明台2、燈籠1(廃棄状態)と、水場が残っている。今も周辺の人が水を汲みに来ている。

現在、境内拝殿の位置だった場所には、1963年に共産党幹部用クラブとしてコンクリート造3階建ての建物が新築された。この建物はペレストロイカ以後「ゴルカ」と呼ばれる市立ホテルとして利用されていたが、2002年から個人に譲渡され、今は会社事務所にあてられている。この他、旧社務所位置には1990年代にスポーツ関連施設(サウナ・事務所)として、コンクリート造2階建て1棟が建設された。奥まった旧境内の地形や樹木は変化が少なく、境内の雰囲気は今も良く残っている。

周辺環境を調べると、旧神社通り、即ち現在のコミュニスト大通りより突当たった神社入り口正面の左側には戦争記念の碑として、1980年建設の「戦士の広場」がある。また右側には1985年建設の共産青年同盟60年記念の「コンソールの並木道」が設けられている。参道の並木はそのままである。境内の位置する旧旭ヶ丘は戦前、市内の全貌が俯瞰できる身近な場所として市民に親しまれた。境内横から登った山の中腹は旭ヶ丘スキー場として親しまれ、絵葉書にもよく登場している。戦後、旭ヶ丘は「山の空気展望台」と呼称を変えながらも引き続き、ロシア人によって夏のハイキングや冬のスキー場としてユジノ・サハリンスクの身近なレジャーの中心地として賑わってきた。特にスキー場は日本時代からのロッジやジャンプ台に加えて、ホテル等が新設され、1995年までは盛況であったが、近年個人事業主に経営が移ってからはロッジの3回にわたる火災もあって、経営不振に陥り事業に失

敗して、現在はスキー場全体が廃墟となっている

【指定護国神社、樺太護国神社（樺太招魂社）】（調査シート No. サー016）

豊原旭ヶ丘の樺太神社の南隣（豊原市大字南豊原字南3線16番地）に位置する。日露戦争の戦没者、及び満洲事変等の樺太出身の戦没者を祀るために1935（昭和10）年現在地に創立された。前身は1908（明治41）年7月12日、豊原神社境内での招魂祭に始まり、1915（大正4）年に大礼記念事業として、同社の境内神社として創建された樺太招魂社である。1939年護国神社の制度が施行されるとともに、樺太護国神社と改称された。本拝殿は70坪、社務所は40坪で、総工費は18万余円、境内の敷地は6000坪、これに周囲の山をあわせると清浄閑雅の地は3万7千余坪の神域となる。

戦後の1948年に本殿等の建物は消滅した<sup>(11)</sup>。現在は階段、基壇、土台が比較的よく残っている。旧本拝殿前の境内部分には1960年代にコンクリート造2層のユジノ・サハリンスク市立病院が建設された。旧社殿跡は病院建築の後庭になっていること、及びその建物がウイルス系の隔離病棟であること、また周囲の樹木や地形も当時のままを留めていることにより、神社境内の雰囲気をもそのまま伝えている。病院正面の右入り口には燈籠（？）の石台が残っており、「奉納／佐々木時造／昭和十年」の彫り字が認められる。

【県社 豊原神社】（調査シート No. サー015）

祭神は天照皇大神・豊受大神・明治天皇・昭憲皇太后で、豊原町東北端の大字豊原字北2線東4番地ノ乙の森蔽閑雅な浄地に鎮座した。1910（明治43）年に創立されたが、創建年はそれより2年早い1908年7月である。同社の起源は、黒住教布教師伴雄三郎が1908年7月に神宮遥拝所と称し、天照皇大神を奉斎したことに始まる<sup>(12)</sup>。創立当初は豊原町の中央にあって、民家と隣接していたが、1915（大正4）年大礼記念事業の1つとして移転の許可を受け、1920年現在の地に社殿を新営移転し、社殿境域の整備拡充に努めた。神明造りで本殿、拝殿、社務所、祝詞舎から構成される。社殿その他の建物延べ床面積は115坪余、境内地は5118坪である。横には旧豊原王子製紙工場が位置した。

戦後、境内敷地跡にはコンクリート2階建ての保育園が建設された。建設年代は不明であるが、建物は数年前より用途変更されて現在死体検死所として使用されている。埋没した何かの礎石1つを発見しただけで、地形もすっかり変わっていて、僅かに大きな松の木とマロニエの木が境内跡らしい痕跡を残すのみである。

【県社 亜庭神社】（調査シート No. サー022）

大泊の中央、字本町西1条南3丁目の眺望抜群な神楽ヶ岡中腹に位置する。境内からは大泊市街と亜庭湾を一望することができた。創立年は1912（大正3）年8月、県社に列格されたのは1930（昭和5）年7月である。祭神は大国主命他4神建物は神明造りで本殿、拝殿、向拝、社務所、手水舎、中門から構成される。建物の延べ床面積は56坪余、境内地は3000坪を有する。また、境内には記念大砲があった<sup>(13)</sup>。谷を挟んだ高台からアプローチする。初期の絵葉書にはその谷に太鼓橋が架かっていたが、時代が下がった写真では見受けられない。

現在は中央正面の石段のみが状態良く残っている。登りきった旧境内は船舶カレッジのキャンパス

になっており、コンクリート3層の建物が2棟建っている。他に付属物として、周囲にころがっている手水鉢と礎石（鳥居の？）の一部を確認した。

【県社 真岡神社】（調査シート No. サ―009, No. サ―010, No. サ―011）

真岡町中央背面の高台山手町の清浄閑雅の地に鎮座する。1910（明治43）年8月の創立である。祭神は天照皇大神，豊受姫大神。1934（昭和9）年5月に県社に列格される。社殿は同年6月に改築されたが，本殿は神明造り銅板葺で，その他拝殿，渡殿，社務所計4棟133坪余の建坪である。また境内地は2559坪を有している。

現在建物は無し。1945年8月のソ連軍による激しい真岡上陸作戦のときに破壊された。現存するのは正面アプローチ部分の石階段，下段石積擁壁，燈籠台座，手水鉢と，比較的付属物は多く残っている。神社本殿位置には1972年建設のコンクリート造5階建てのサハリン郵船会社社屋がある。<sup>(14)</sup>

真岡の街は当時海岸の低地部分と，テレースと呼ばれる高台部分の2層レベルで構成されていた。神社・記念碑・奉安殿・学校等公的な建物は眺望のよい2段目の高台のテレースに位置していた。現在もその眺望は確保しているが，戦後は更にその上の3層目の高台テレースに団地が開発されている。

【無格社 北辰神社】（調査シート No. サ―013）

豊原町大字北豊原字北2線西1番地に位置し，境内周囲が川で囲まれた特徴ある地形（巾着型）で，かつて北斗七星を祭った神社である。創立年は1924（大正13）年2月である。祭神は天御中主神。流れ造様式で本殿，拝殿，幣殿，向拝，社務所，手水舎から構成される。境内地の広さは1226坪である。

現在その特徴ある地形の形態は全く確認できない。位置を確定するのに最も苦勞した。近所に住む長老へのヒアリングによれば，彼も子供の頃，この境内をめぐる川でよく水遊びをしたが，1960年代に団地が建設され，その時川も境内の環境も消滅したとのことである。現在はコンクリート5階建てのアパート団地と駐車場になって，昔の痕跡は全く無い。

【無格社 泊居神社】（調査シート No. サ―002）

創立年は1921（大正10）年11月，所在地は泊居町大字泊居である。祭神は天照皇大神，倉稻魂命，大山祇神である。本殿，拝殿，渡殿，社務所，祝詞舎から構成され，境内地は2921坪ある。横に泊居王子製紙工場が位置する。

現在建物は無いが，2つの鳥居，基壇の一部，忠魂碑，戦勝記念碑の一部が山の中腹の草ぼうぼうのなかに残っている。海にひらいたロケーションは素晴らしい。また逆に街からこの荒れ果てた旧神社跡地を眺めると，残存する2本の鳥居が象徴的である。現存する忠魂碑には「陸軍大臣小磯国昭謹書」の文字，そして本殿前の鳥居には「奉納」と「皇紀二千六百年魚谷桑次郎」の彫り字が読み取れる。

【無格社 蘭泊神社】（調査シート No. サー007）

真岡郡蘭泊村大字蘭泊村字蘭泊 159 の 1 に位置する。創建年は古く、1907（明治 40）年 6 月、創立年は 1922（大正 11）年 12 月である。祭神は大物主之大神。流れ造りの本殿、拝殿、渡殿、社務所、手水舎、神饌所、神興殿からなり、境内地は 1000 坪である。

現在は建物無し。草ボウボウの中、鳥居の台座が 2 つと狛犬の台座（？）が 1 つ残るのみ。線路脇の海に面した斜面中腹で、視界はよいが、土地は荒れ果てたまま何にも使用していない。

【無格社 追手神社】（調査シート No. サー003）

泊居郡泊居町大字追手字下追手に位置する。創立は 1931（昭和 6）年 11 月、本殿と拝殿からなる。祭神は天照皇大神。境内地は 1000 坪。ヒアリングによれば戦前は小学校があって、海から見てその左手に神社、右手に奉安殿（現存）が位置し、その奉安殿の奥の山すそに墓地があったとのこと。

現在、荒地のなかに数本の大きな松の木が残り、神社境内跡地であったことを確認できる。燈籠のコンクリート台座が斜面の草むらから発見された。「奉納／昭和五年九月建設／川崎吉松」の彫り字が認められる。

【無格社 野田神社】（No. サー005, No. サー006）

野田神社は野田町大字野田字西 3 条区画外に位置する。創建年は古く 1906（明治 39）年 7 月、創立年は 1923（大正 12）年 8 月である。祭神は天照皇大神。様式は神明造で、本殿、拝殿、渡殿、社務所、神輿殿から構成される。境内地は 1440 坪、町を俯瞰する山の中腹に位置し、当時の絵葉書を見ると、はるか横に奉安殿が写っているのが認められる。

現在この奉安殿は建物、階段ともに比較的原型をとどめているが、神社関係の建物及び参道等は何も見当たらない。跡地は海を見通し、町を鳥瞰できる素晴らしい場所である。草ボウボウの敷地には平屋家屋 2 軒が建つのみである。

【稲荷神社】（調査シート No. サー004）

旧市街図により野田王子製紙工場の社宅群の上方に稲荷神社を確認していたが、佐藤論文には見当たらないために戦前の詳細は不明。

現在、社宅群上の小高い境内跡地には山羊や羊が放牧され、牧草地となっている。草むらに燈籠の台座が 1 つ残存するのを確認するのみである。

【無格社 大山祇神社】（調査シート No. サー024）

豊原郡川上村大字三井字川上炭山の旧三井炭鉱を見下ろす小高い裏山の頂上に位置する。創立は 1921（大正 10）年 5 月、祭神は大山祇命。入母屋造の本殿と拝殿の合せて 23 坪の小さな神社である。境内地は 980 坪あった。

現在コンクリートの壊れた鳥居の足が一本立っており、その付近には、鳥居の他の部分の残骸があるのみで、境内跡地は一部畑、他は未利用のままである。すぐそばの炭鉱は調査に行った 10 月 11 日の前日に休炭閉鎖となった。

【大泊 表忠碑】（調査シート No. サ-020）

1905（明治38）年7月の日露戦争に参戦した原口中将第13師団と片岡中将の艦隊による樺太上陸占領を記念して、1908年大泊神楽ヶ丘の一角に建てられた。「樺太において戦没された陸軍歩兵少佐西久保豊一郎以下軍人・軍属51名の遺骨を埋葬し、その英霊を祀り、最大激戦で敵の主力を全滅した7月12日（西久保少佐戦死）を記念し毎年招魂祭を挙<sup>(15)</sup>行」していた。記念の砲身を祀り、拝殿を設けている。この場所からの眺望は素晴らしく、すぐ下には旧領事館（その後大泊役場）があった。その後、一山越えて王子製紙工場ができてからはこの地域はすっかり寂れた。

現在はりっぱな基壇のみが残る。すぐ横は大きな気象観測所であったが、現存するのは小さな地震室（平屋コンクリート造）1棟のみで、全て建替えられている。

【真岡戦勝記念碑】（調査シート No. サ-010）

真岡山手町、真岡神社の直ぐ下に位置する。日露戦争の勝利を記念して建てた記念碑である。

戦後ソビエト政府はこの戦勝記念碑を壊し、1975年その跡にホルムスクの戦い（ソ連軍真岡上陸作戦）で亡くなった人々の記念碑として「戦勝30年記念碑」を建立した。またその場所は戦前も戦後も小公園のままである。記念碑は建替えられたが、環境も機能もそのままであるのはここだけである。

【奉安殿】（調査シート No. サ-001, No. サ-003, No. サ-006, No. サ-011, No. サ-012, No. サ-014, No. サ-026）

予備調査では情報の無かった泊居、追手、野田、真岡、二股、敷香（現樺太郷土誌博物館に移築）、大泊の7つの奉安殿の現存を確認することができた。これはカウンターパートナーであるサマリ<sup>(16)</sup>ン氏のこれまでの研究成果に拠ったためである。現在倉庫物置として使用されているのが2例、展示が1例、他の4例は廃墟となっている。

おわりに

2004年度は旧樺太の神社跡地調査を中心にして、戦前戦後の資料を収集整理し、併せて2100枚のスライド撮影を行い、26枚の調査シートにまとめてデータベースを作成した。

現存調査の結果、神社12件、忠魂碑1件、戦勝記念碑1件の建物及び碑は全く現存していないことが判明した。この理由については、戦後直後のソビエト側の政策が強く働いたことがサマリ<sup>(16)</sup>ン氏より指摘されているが、資料未確認のため今後の課題である。

14の敷地跡地のうち、新しく建物乃至記念碑が建てられているのが8件であり、他の6件は廃墟か荒地のまま放置されている。県社以上の格式の高い旧神社の場所には全て新しく建物が建っている。特に官幣大社樺太神社跡地にはソビエト側によって共産党幹部用クラブハウスが建設されたことには強い関心をもつ。

また、神社施設ではないが、戦前学校に付属していた奉安殿建物の現存が7つ確認できたことも、特記すべきことである。

## 注

- (1) 中島三千男「海外神社研究序説」(『歴史評論』602号 2000年6月)
- (2) 『樺太庁施政30年史』(下) 樺太庁, 原書房(明治百年史叢書)1974年p.1535 但し1910(明治43)年10月16日に樺太庁令第29号により,「社司社掌任用規則」が出されている。
- (3) 前田孝和「樺太神社資料」(『皇学館大学神道研究所紀要』10号 1994年3月)
- (4) 佐藤弘毅「戦前の海外神社一覧I—樺太・千島・台湾・南洋—」(『神社本庁教学研究紀要』2号 1997年3月)
- (5) 注3に同じ。
- (6) 主な論文として,井潤裕『日本期南サハリンにおける建設活動に関する研究』2000年北海道大学博士学位論文. 同『日本期南サハリンの歴史と建造物に関する研究』小渕フェローシップ研究報告書2002年6月 井潤裕, 越野武, 角幸博, 高橋学「南サハリンにおける日本統治期(1905~45)建築の現存状況」(『日本建築学会技術報告集』第5号 1997年12月) 角幸博, 石本正明, 井潤裕, 松本浩二, 角哲「南サハリン東部および西部の日本統治期(1905~45)建築の現存状況」(『日本建築学会技術報告集』第15号 2002年6月) 『南サハリンにおける日本統治期(1905~45)の建造物に関する広域実態調査』科学研究費補助金研究成果報告書(課題番号12572027, 研究代表者角幸博)2003年4月 井潤裕, 角幸博「On the investigation of japanese historic buildings in yuzhno-sakhalinsk」(『日本建築学会計画系論文集』571号 2003年9月)
- (7) Самарин И. А. Сингоистские Храмы Карафутго//Вестник Сахалинского Музея. Южна Сахалинск, 1999 No.6. また, Самарин И. А. Материальные остатки идеологии Тенноизма на южном Сахалине//Вестник Сахалинского Музея. Южна Сахалинск, 1998 No.5. は樺太に建てられた奉安殿を中心とした論考であるが,神社についても部分的に触れられている。尚この論文の邦訳(訳ムカイダイス, 監訳井潤裕)は,神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科紀要『歴史民俗資料学研究』9号(2004年3月発行予定)に掲載予定である。
- (8) 『目で見る樺太時代II』国書刊行会1987年12月p.63
- (9) 『望郷樺太』国書刊行会1979年5月p.49
- (10) 『大日本神社大鑑(北海道, 樺太版)』同編集部, 恢弘社1935年6月p.4
- (11) サマリン談. 注7の邦訳論文にも「戦後ソビエト政府の意向により, 神社建物は破壊された」とある。
- (12) 前掲『大日本神社大鑑』p.335
- (13) 前掲『望郷樺太』p.104
- (14) サマリン談.
- (15) 『樺太沿革・行政史』全国樺太連盟1978年6月p.1025

## 写真・地図資料

- \* 『樺太市街地図 商工人名総覧』国書刊行会1981年7月
- \* 『写真集サハリン 樺太は遠く』国書刊行会1983年10月
- \* 『目で見る樺太時代I・II』国書刊行会1987年12月
- \* 『サハリン・樺太 いま・むかし』北海道サハリン会・北海道日ソ親善協会1981年9月
- \* 『日本地理体系 第10巻 北海道・樺太編』改造社1930年2月
- \* 『豊原市街地図』豊原中学校同窓会発行(1936年頃か?) ユジノ・サハリンスクで入手
- \* 『樺太島瞰図』戦前年代, 発行所不明, ユジノ・サハリンスクで入手
- \* 現代サハリン絵葉書4冊(ユジノ・サハリンスク)
- \* 現代都市地図3点(ユジノ・サハリンスク, ホルムスク, トマリ)



### 〔追記〕

本稿の本文・注及び後掲の図2「サハリン神社跡地調査ルート&日程」,「海外神社調査表」は富井正憲の執筆・作成。「海外神社調査表」の写真は全て藤田庄市の撮影。図1「樺太における支庁別神社数」及び表1「樺太における海外神社創立年表」は中島三千男の作成である。

### 〔謝辞〕

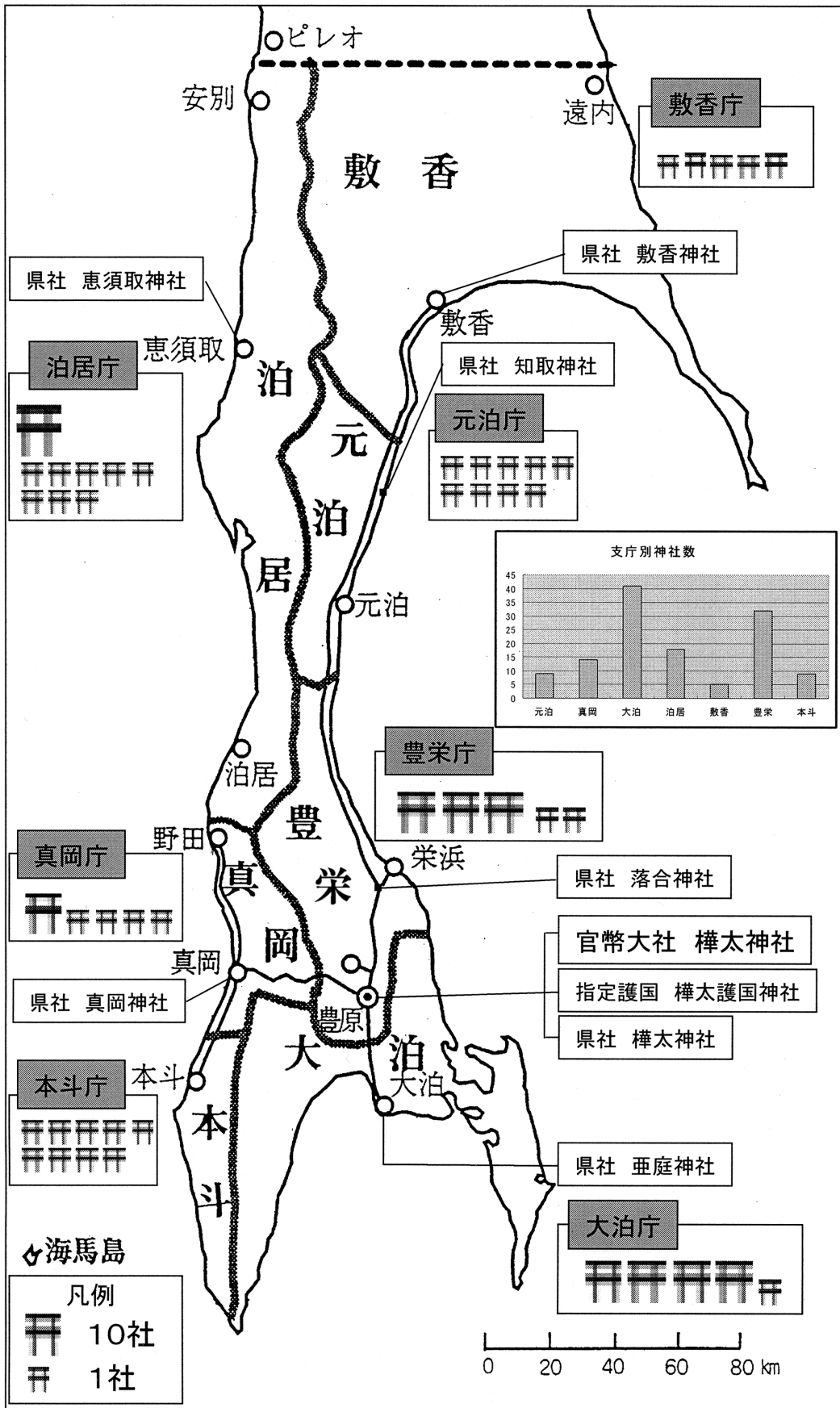
今回のサハリン調査にあたって、中本信幸、長瀬隆、堤正典、小石吉彦の各氏よりは、事前に様々な情報の提供をいただき、また神社本庁教学研究所及び全国樺太連盟には、文献その他資料の閲覧、複写でお世話になった。また調査に同行された大里浩秋、孫安石の両氏には、事前の学習会の報告、資料収集、現地での跡地の探索等に大変お世話になった。又、本文でも触れたが、今回の我々の調査がそれなりの成果をあげ得たのもイゴール・サマリニン氏にご同行いただいたお蔭である。ここに改めて感謝申しあげる次第である。

富井（COE 共同研究者）

藤田（COE 調査研究協力者）

中島（事業推進担当者）

図1 樺太における支庁別神社数



・佐藤弘毅「戦前の海外神社一覧I—樺太・千島・台湾・南洋—」をもとに中島三千男作成

表1 樺太における海外神社創立年表

支庁名	神社名	祭神	創立年	例祭日	境内地	氏子数	神殿等	鎮座地	職員等
1 豊栄	官幣大社 樺太神社	大國魂命 大己貴命 少彦名命	1910(M43)年8月17日 創格年 1910(M43)年8月17日	8月23日	21,716		本殿 拝殿 渡殿 社務所 祝詞舎 手水舎 神饌所	豊原市豊原町旭ヶ丘	宮司 大島乙丸 禰宜 小栗勝彦 主典 渡邊正孝 主典 菅谷耕平 (出仕○広富 雇員○多田)
2 豊栄	県社 豊原神社	天照皇大神 豊原大神 明治天皇 昭憲皇太后	1910(M43)年8月31日 創格年 1908(M41)年7月11日 列格年 1928(S3)年11月5日	6月16日	5,118		神明造 本殿 拝殿 社務所 祝詞舎	豊原町大字豊原字北二線東 四番地ノ乙	社司 伴雄三郎 社掌 伴與四郎 (社司 黒田盛貞) 雇員○多田
3 真岡	県社 真岡神社	天照皇大神 豊受姫大神	1910(M43)年8月31日 創格年 1910(M43)年8月31日 列格年 1934(S9)年5月10日	7月10日	2,559	8,185	神明造 本殿 拝殿 渡殿 社務所	真岡郡真岡町大字真岡 字山手町四丁目区画	社司 湖山寛
4 大泊	無格社 一ノ沢神社	天照皇大神	1913(T2)年4月16日 創格年 1911(M44)年	6月15日	600		入母屋作造 本殿 拝殿	大泊郡千歳村字一ノ沢	(兼 社掌 山田信義)
5 大泊	県社 西庭神社	大國主命 葺代主命 御食津神 菅田別尊 市村島姫命	1914(T3)年8月14日 列格年 1930(S5)年7月5日	8月10日	3,000		神明造 本殿 拝殿 向拝 社務所 手水舎 中門	大泊郡大泊町大字大泊字本町 西一条南三丁目 氏子区域 大泊・留多加・長浜・富内の四 郡	社司 山田信義 社掌 吉田源二郎 (雇員○小川小六 雇員○吉田守)
6 豊栄	無格社 菜浜神社	天照皇大神 倉稲魂命 大綿津真神 孫田彦命 大宮女命	1918(T7)年7月25日 創格年 1909(M42)年7月15日	7月15日	1,890	1,350	神明造 本殿 拝殿 幣殿 社務所 手水舎	菜浜郡菜浜村大字菜浜 字柏浜南74-86番地	社掌 田村健男
7 大泊	無格社 船見神社	大物主命 倉稲魂命 大海津見神	1920(T9)年3月3日 創格年 1907(M40)年8月	9月10日	1,620	1,500	入母屋造 本殿 拝殿 幣殿 向拝 渡殿 神饌所 手水舎	大泊町船見町	社掌 関根一郎
8 豊栄	無格社 清川神社	天照皇大神	1920(T9)年7月3日	7月16日	900		本殿 拝殿 幣殿 手水舎	豊原郡豊原町大字清川字清川	(兼 社掌 後藤三郎)
9 豊栄	無格社 大沢神社	天照皇大神 大國主命 稻荷大神	1921(T10)年4月19日	6月22日	1,860		本殿 拝殿	豊原郡豊原町大字大沢字大沢	(兼 社掌 後藤三郎)
10 敷香	無格社 泊岸神社	大國魂命 大己貴命 少彦名命	1921(T10)年5月7日	8月5日	1,020		本拝殿	敷香郡泊岸村大字泊岸字泊岸	
11 敷香	無格社 内路神社	天照皇大神	1921(T10)年5月7日 創格年 1915(T4)年8月15日	8月15日	1,005	500	神明造	敷香郡内路村末広町	社掌 元山多一
12 豊栄	県社 落合神社	大國魂命 大己貴命 少彦名命	1921(T10)年5月7日 創格年 1915(T4)年9月24日	7月24日	6,660	2,300	神明造 本殿 向拝 渡殿 社務所 手水舎 中門	菜浜郡落合町大字落合 字南十七線東二十番地	社司 小野文八
13 大泊	無格社 奥森稲荷神社	稲荷大神	1921(T10)年5月17日	7月10日	900		本殿 拝殿 渡殿	長浜郡厚浜村大字奥森字奥森	
14 豊栄	無格社 大山祇神社	大山祇命	1921(T10)年5月17日 創格年 1914(T3)年10月17日	6月22日	980	600	入母屋造 本殿 拝殿	豊原郡山上村大字三井 字川上炭山	(兼 社掌 黒田盛貞)
15 豊栄	無格社 深雪神社	豊田別尊 天照皇大神 少彦名命	1921(T10)年5月17日 創格年 1921(T10)年6月11日	6月15日	1,110		本殿 拝殿 渡殿	豊原郡豊北村大字深雪字深雪	(兼 社掌 後藤三郎)
16 豊栄	無格社 下並川神社	天照皇大神 少彦名命	1921(T10)年6月11日	7月28日	1,000		本殿 拝殿	豊原郡豊原町下並川	(兼 社掌 黒田盛貞)
17 元泊	無格社 八幡神社 (元泊)	豊田別尊 足仲彦尊 氣足尾姫命	1921(T10)年7月6日 創格年 1910(M43)年8月15日	7月15日	1,703	850	本殿 拝殿 社務所	元泊郡元泊村大字元泊 字元泊浜八三番地ノ一	社掌 北垣顕一
18 豊栄	無格社 唐松神社	天照皇大神	1921(T10)年7月6日	7月15日	1,590		本殿 拝殿 向拝	豊原郡豊原町大字唐松字唐松	(兼 社掌 後藤三郎)

支庁名	神社名	祭神	創立年	例祭日	境内地	氏子数	神殿等	鎮座地	職名等
19 豊栄	無格社 川上神社	天照皇大神	1921(T10)年7月28日	7月30日	1,620		本殿 拝殿	豊原郡豊北村川上	(兼 社掌 後藤三郎)
20 豊栄	無格社 鈴谷神社	天照皇大神 大國主命	1921(T10)年7月28日	8月1日	950		本殿 拝殿	豊原郡豊北村大字鈴谷	(兼 社掌 田村健男)
21 敷香	県社 敷香神社	天照皇大神	1921(T10)年8月1日 創建年 1911(M44)年7月30日 列格年 1940(S15)年12月28日	8月10日	4,577	3,581	神明造 本殿 拝殿 向拝 渡殿 社務所 拝殿 向拝 手水舎 神饌殿	敷香郡敷香町宮通	社司 小深田文雄 (社掌 板井清直)
22 豊栄	無格社 白川神社	大國魂命 大己貴命 少彦名命 明治天皇	1921(T10)年9月20日	7月17日	888		本殿 拝殿	栄浜郡落合町大字白川字白川	(兼 社掌 後藤三郎)
23 豊栄	無格社 追分神社	天照皇大神 豊受大神 八幡大神 外二十柱	1921(T10)年9月20日	7月12日	1,000		本殿 拝殿 社務所	豊原郡豊原町追分	(兼 社掌 黒田盛貞)
24 大泊	無格社 貝塚神社	大國主命 事代主命 御食津神 磐田別尊 市杵島姫命	1921(T10)年9月30日 創建年 1915(T4)年8月	6月10日	1,000		切り妻 本殿 拝殿	大泊郡千歳村大字貝塚字貝塚	(兼 社掌 山田信義)
25 本斗	無格社 麻内神社	事代主命 大綿津見神	1921(T10)年10月5日	6月20日	487		本殿 拝殿	本斗郡本斗町大字阿幸字麻内	(兼 社掌 菅秀一)
26 大泊	無格社 雄吠泊神社	大國主命 事代主命 稻荷大神	1921(T10)年10月10日	7月1日	900		本拝殿	大泊郡深海村雄吠泊	(兼 社掌 山田信義)
27 本斗	無格社 南名好中央神社	大國主命 事代主命 御食津神 磐田別尊 市杵島姫命	1921(T10)年10月12日	6月22日	970.5		本殿 拝殿	本斗郡好仁村大字南名好 字南名好於二五番一	(兼 社掌 湖山寛)
28 大泊	無格社 小田井神社	大國主命 事代主命 御食津神 磐田別尊 市杵島姫命	1921(T10)年10月18日	8月30日	960		本殿 拝殿 幣殿	大泊郡深海村小田井字円内	(兼 社掌 山田信義)
29 泊居	無格社 名好神社	警田別命	1921(T10)年10月25日 創建年 1910(M43)年6月15日	7月15日	300	800	入母屋造 本殿 拝殿 向拝 渡殿	名好郡名好村大字名好字名好	社掌 中島儀一 (社掌 米島冬蔵)
30 泊居	県社 意須取神社	天照皇大神 明治天皇 警田別尊 神武天皇	1921(T10)年10月25日	7月15日	1,200		本殿 拝殿 社務所 神饌所	名好郡意須取町大字意須取	社司 田代龜記 社掌 平井亥子雄
31 泊居	無格社 鶴城神社	大國魂命 大己貴命 少彦名命 虎神天皇	1921(T10)年11月3日 創建年 1918(T4)年7月15日	7月15日	2,200	750	入母屋造 本殿 拝殿	鶴城郡鶴城市外東方高地	社掌 八万真道
32 泊居	無格社 泊居神社	天照皇大神 倉稻魂命 大山姫神	1921(T10)年11月8日	7月15日	2,921		本殿 拝殿 渡殿 社務所 祝詞舎	泊居郡泊居町大字泊居	社掌 萩原実 (社掌 石塚安雄)
33 豊栄	無格社 小沼神社	天照皇大神	1921(T10)年11月8日 創建年 1914(T3)年6月15日	7月1日	2,000		本殿 拝殿 幣殿 向拝	豊原郡豊北村大字小沼 字北二十線東二号	(兼 社掌 後藤三郎)
34 大泊	無格社 荒栗神社	倉稻魂命 孫田彦神 大宮女神	1921(T10)年11月16日	7月11日	920		本殿 拝殿	長浜郡長浜村大字荒栗字荒栗	
35 泊居	無格社 重比須神社	倉稻魂命	1921(T10)年11月24日					久壽内郡三浜村大字重比須	
36 真岡	無格社 八幡神社	八幡大神	1921(T10)年11月24日	8月15日	900		本拝殿	野田郡野田町字南沢	

支庁名	神社名	祭神	創立年	例祭日	境内地	氏子数	神殿等	鎮座地	職員等
37 本斗	無格社 本斗神社	天照皇大神 大國魂命 大己貴命 少彦名命 稻荷大神 聖德太子 船魂大神 倉稻魂命	1921(T10)年12月8日	7月10日	1,460		本拝殿	本斗郡本斗町大字本斗	社掌 菅秀一
38 泊居	無格社 萌菱神社	天照皇大神 大己貴命 少彦名命 稻荷大神 船魂大神	1922(T11)年1月6日					久春内郡三浜村大字幸浜字萌菱 久春内郡春内村大字久春内	
39 泊居	無格社 久春内神社	天照皇大神 大己貴命 少彦名命 大國魂命 倉稻魂命	1921(T10)年						
40 泊居	無格社 牛毛神社	豐受大神	1922(T11)年1月26日					久春内郡久春内村大字牛毛字牛毛	
41 大泊	無格社 彌瀨神社	稻荷大神	1922(T11)年2月22日	7月15日	890		本殿 拝殿 幣殿	長浜郡知床村大字内知床字彌瀨	(兼) 社掌 山田信義
42 大泊	無格社 長浜神社	大國魂命 事代主命 稻荷大神 大海津見命 產土大神	1922(T11)年3月9日	7月8日	1,500		本殿 拝殿 渡殿	長浜郡長浜村大字長浜字池辺	社掌 森木立治
43 豊栄	無格社 西久保神社	西久保豊一郎命 他一人柱	1922(T11)年3月11日	7月12日	900		本殿	豊原郡豊原町西久保大字軍川 字軍川	(兼) 社掌 後藤三郎
44 豊栄	無格社 大谷八幡神社	応神天皇	1922(T11)年4月6日 創建年	7月14日	960		本殿 拝殿 向拝	栄浜郡落合町大字大谷	(兼) 社掌 後藤三郎
45 豊栄	無格社 野寒神社	大己貴命 少彦名命 三吉靈神	1922(T11)年4月 1922(T11)年6月27日	8月17日	750		本拝殿	栄浜郡栄浜村大字野寒字野寒	
46 大泊	無格社 雨龍神社	天照皇大神 善田別尊	1922(T11)年7月9日	7月5日	3,000		本殿 拝殿 渡殿	留多加郡能登呂村大字雨龍	(兼) 社掌 広富藤藏
47 豊栄	無格社 草野神社	天照皇大神	1922(T11)年7月28日	7月11日	840		本殿 拝殿 幣殿 向拝	豊原郡豊北村大字草野字草野	(兼) 社掌 後藤三郎
48 大泊	無格社 富内稻荷神社	宇迦之御魂神 須佐之男神 大布比賣神	1922(T11)年8月22日	9月5日	1,000		本殿 拝殿 渡殿 社務所	富内郡富内村字恩洞	(兼) 社掌 山田信義
49 泊居	無格社 安別神社	大國魂命 大己貴命 少彦名命	1922(T11)年9月29日	8月15日	300		本殿 拝殿	名好郡名好村大字安別字安別	社掌 来島冬藏
50 本斗	無格社 南名好神社	天照皇大神 大國魂命 大己貴命 少彦名命	1922(T11)年11月3日	6月18日	1,000		本殿 拝殿 社務所	本斗郡好仁村大字南名好 字南名好沢三番地右方	(兼) 社掌 湖山寛
51 真岡	無格社 小能登呂神社	大國魂命 少彦名命 大己貴命	1922(T11)年12月15日	7月8日	910		本拝殿	野田郡小能登呂村字下能登呂	社掌 辻野繁太郎 (兼) 社掌 湖山寛
52 真岡	無格社 蘭泊神社	大物主之大神	1922(T11)年12月25日 創建年	6月15日	1,000	450	流丸造 本殿 拝殿 渡殿 社務所 手水舎 神饌所 神輿殿	真岡郡蘭泊村大字蘭泊村 字蘭泊一五九ノ一	社掌 高木栄次郎 (兼) 社掌 高木栄次郎
53 大泊	無格社 遠瀨神社	大物主命 倉稻魂命	1922(T11)年12月29日 1907(M40)年6月16日	7月10日	1,000		本拝殿	長浜郡遠瀨村大字遠瀨字遠瀨	(兼) 社掌 山田信義
54 大泊	無格社 三ノ沢神社	佐田彦命 大宮能売命	1923(T12)年4月16日 創建年 1911(M44)年10月	6月2日	990		本殿 拝殿	大泊郡千蔵村大字三ノ沢字三ノ沢	(兼) 社掌 山田信義
55 大泊	無格社 女麗神社	御倉津神 東伏見宮依仁親王 西久保豊一郎命	1923(T12)年5月19日	7月7日	1,000		本殿 拝殿	大泊郡深海村大字女麗	(兼) 社掌 山田信義
56 泊居	無格社 元沢神社	豐受大神	1923(T12)年5月19日	8月10日	852		本拝殿	泊居郡泊居町大字元沢字元沢	(兼) 社掌 石塚安雄
57 豊栄	無格社 富岡神社	八幡大神	1923(T12)年6月16日	7月15日	900		本殿 拝殿 向拝	豊原郡豊北大字富岡字富岡	(兼) 社掌 後藤三郎
58 真岡	無格社 野田神社	天照皇大神	1923(T12)年8月20日 創建年 1906(M39)年7月1日	7月16日	1,440	3,000	神明造 本殿 拝殿 渡殿 社務所 神輿殿	野田郡野田町大字野田 字西三条区画外	(兼) 社掌 石塚安雄

支庁名	神社名	祭神	創立年	例祭日	境内地	氏子数	神殿等	鎮座地	職員等
59	本斗 無格社 西ノ宮神社	惠比壽神 天照皇大神	1923(T12)年9月7日	7月10日	975		本拝殿 本殿 拜殿 神饌所	本斗郡海馬村字泊血五三番地 本斗郡内幌村字内幌	社掌 菅清保 (兼 社掌 菅秀一)
60	本斗 無格社 内幌神社	明治天皇 稻荷大神 金毘羅神 神武天皇	1923(T12)年10月1日	7月1日	2,000				
61	本斗 無格社 内幌神社 氣主別社	天照皇大神	1923(T12)年10月1日	7月1日	1,000		本殿 拜殿	本斗郡内幌村字氣主	(兼 社掌 菅秀一)
62	本斗 無格社 内幌神社	天照皇大神	1923(T12)年10月1日	7月1日	1,000		本殿 拜殿	本斗郡内幌村字上内幌沢	(兼 社掌 菅秀一)
63	大泊 無格社 禰太出雲神社	大国主命 事代主命	1923(T12)年10月23日	7月23日	756		本殿 拜殿 幣殿 社務所	大泊郡大泊町大字大泊 字本町西二条西二丁目	(兼 社掌 山田信義)
64	豊栄 無格社 北辰神社	天御中主神	1924(T13)年2月2日	6月25日	1,226		流石造 本殿 拜殿 幣殿 向拝 社務所 手水舎	豊原町大字北豊原字北二線西一番地	社掌 後藤官藏 社掌 後藤三郎
65	豊栄 無格社 竝川神社	天照皇大神	1924(T13)年3月31日 創建年	8月1日	1,000		本殿 拜殿 幣殿	豊原郡豊原町竝川	(兼 社掌 後藤三郎)
66	真岡 無格社 姉苗三吉神社	大己貴命 少彦名命 三吉大神	1924(T13)年3月 1925(T14)年8月28日	8月17日	300		本拝殿	真岡郡広地村大字大穂泊字姉苗	(兼 社掌 湖山寛)
67	元泊 県社 知取神社	天照皇大神	1925(T14)年8月 創建年 1925(T14)年8月 改称年	7月17日	2,818		神明造 本拝殿 社務所 神樂殿	元泊郡知取村大字知取字末広町区画	社司 瀧下久治 (社司 船尾教孝)
68	豊栄 無格社 東白浦神社	大国魂命 大己貴命 少彦名命	1929(S4)年4月14日 真知取神社改称 創建年	7月12日	1,000	350	本殿 拜殿	栄浜郡白縫村大字白浦 字白浦区画外	社掌 山名忠興
69	大泊 無格社 山下竹駒神社	天照皇大神	1914(T13)年7月11日 1925(T14)年12月1日	9月12日	1,104		本殿 拜殿 幣殿 社務所	大泊郡大泊町大字大泊字山下町	(兼 社掌 山田信義)
70	大泊 無格社 留多加八幡神社	宇迦之御魂神 八幡大神	1926(T15)年8月13日 創建年	7月15日	900	850	本拝殿	留多加郡留多加町 大字西留多加八幡町	社掌 広富藤藏
71	元泊 無格社 稲荷神社	天照皇大神 宇迦之御魂命 猿田彦命 大宮姫命	1926(T15)年11月11日 1908(M41)年	8月10日				元泊郡知取町大字知取字浜町	
72	大泊 無格社 八幡神社	天照皇大神	1926(T15)年11月9日	8月15日	900		本殿 拜殿	大泊郡深海村玄離字鳥居沢	(兼 社掌 山田信義)
73	元泊 無格社 北邊古丹神社	天照皇大神	1926(T15)年11月9日	5月5日	1,000		本拝殿	元泊郡知取町大字北邊古丹	
74	大泊 無格社 二ノ沢神社	天照皇大神 宇迦之御魂神	1927(S2)年12月14日 創建年	6月28日	1,430		本殿 拜殿 幣殿 渡殿	大泊郡千歳村大字千歳字二ノ沢	(兼 社掌 山田信義)
75	泊居 無格社 下退手神社	天照皇大神 明治天皇 稻荷大神 秘藏大神	1907(M40)年 1927(S2)年8月1日	7月30日	1,000		本殿	泊居郡泊居町大字退手字下退手	
76	泊居 無格社 宝沢神社	天照皇大神 比伊女神	1927(S2)年5月3日					久春内郡久春内村大字久春内 字宝沢	
77	泊居 無格社 珍内神社	天照皇大神	1928(S3)年1月28日	7月12日	900		本拝殿	久春内郡三浜村大字珍内字来知志	社掌 黒田盛貞 (社掌 黒田米一)
78	敷香 無格社 敷江神社	大国魂命 大己貴命 少彦名命	1928(S3)年5月11日	6月25日			本拝殿	敷江郡敷江村大字敷江字能登	
79	大泊 無格社 古牧神社	天照皇大神 事代主命	1928(S3)年6月8日	7月18日	602		本拝殿	大泊郡大泊町大字古牧字古牧	(兼 社掌 山田信義)

支庁名	神社名	祭神	創立年	例祭日	境内地	氏子数	神殿等	鎮座地	職員等
80 大泊	無格社 嶮内保神社	大己貴命 少彦名命 保食神 大槌比古命	1928(S3)年10月10日	7月20日	1,050		本殿 拜殿 渡殿	留多加郡三郷村大字嶮内保 字嶮内保	(兼 社掌 山田信藏)
81 真岡	無格社 栗藤神社	大槌津皇命	1928(S3)年11月12日	6月7日	840		本殿 拜殿	真岡郡蘆沼村大字本古丹字栗藤	(兼 社掌 高木英次郎)
82 大泊	無格社 大禮神社	明治天皇 事代主命 大物主命 船魂神 月読命 天狹野命	1929(S4)年4月30日	7月27日	1,000		本殿 拜殿	留多加郡能登呂村大字知志谷 字右浜	(兼 社掌 森木立治)
83 大泊	無格社 多蘭内神社	事代主大神 大物主大神 大海住大神	1929(S4)年7月26日	8月17日	3,000		本殿 拜殿	留多加郡三郷村大字多蘭内	(兼 社掌 広富藤藏)
84 豊栄	無格社 内端神社	玉御中主神 渡辺菊太郎命 外十一柱	1929(S4)年9月12日	8月12日	600		本殿 拜殿 渡殿	栄浜郡落合町大字深草字内端	(兼 社司 小野文八)
85 本斗	無格社 阿幸神社	事代主命	1929(S4)年10月11日	6月12日	800		本殿 拜殿	本斗郡本斗町大字阿幸字阿幸	(兼 社掌 菅一)
86 大泊	無格社 川口金刀比羅神社	金刀比羅大神	1929(S4)年12月4日	7月10日	990		本殿 拜殿	留多加郡留多加町大字川口	(兼 社掌 広富藤藏)
87 真岡	無格社 久良忌稻荷神社	豐受比売大神	1930(S5)年1月6日 創建年 1906(M39)年	6月5日	172		神明道 本殿 拜殿	野田郡野田町大字久良忌	(兼 社掌 石塚安雄)
88 大泊	無格社 小里八幡神社	八幡大神	1930(S5)年4月25日	7月30日	900		本殿 拜殿 渡殿	留多加郡留多加町大字小里	(兼 社掌 広富藤藏)
89 豊栄	無格社 山中神社	品陀和氣命 住吉大神 金刀比羅大神	1930(S5)年5月9日 (ママ)	8月13日	900		本殿 渡殿 拜殿 向拜	栄浜郡落合町字山中	(兼 社掌 小野文八)
90 大泊	無格社 大豊神社	大國魂命 大己貴命 少彦名命	1930(S5)年5月20日	8月23日	1,000		本殿 拜殿	留多加郡留多加町大字河西字大豊	(兼 社掌 広富藤藏)
91 豊栄	無格社 小谷神社	虎神天皇 金刀比羅大神	1930(S5)年11月12日	6月24日	2,489		本殿 拜殿 向拜	栄浜郡落合町字小谷	(兼 社掌 小野文八)
92 豊栄	無格社 奥川上神社	豐受稻荷大神	1930(S5)年11月18日	9月6日	1,120		本殿 拜殿	豊原郡豊北村大字本川上字奥川上	(兼 社掌 広富藤藏)
93 大泊	無格社 江ノ浦神社	海住大神	1930(S5)年12月8日	8月1日	1,000		本殿 拜殿	留多加郡留多加町大字江ノ浦	(兼 社掌 広富藤藏)
94 大泊	無格社 上豊美内稲荷神社	倉稻魂命 素盞鳴命 大己比売命	1931(S6)年3月18日	8月10日	1,000		本殿 拜殿	富内郡富内村大字豊美内 字上豊美内	(兼 社掌 山田信藏)
95 大泊	無格社 南遠古丹神社	倉稻魂命 素盞鳴命 大市比売命	1931(S6)年4月14日	8月20日	1,000		本殿 拜殿	富内郡富内村大字落帆字南遠古丹	(兼 社掌 山田信藏)
96 豊栄	無格社 円山神社	虎神天皇 素盞鳴命	1931(S6)年6月8日	7月15日	900		本殿 拜殿 向拜	栄浜郡落合町字円山	(兼 社掌 小野文八)
97 泊居	無格社 智来神社	天照皇大神	1931(S6)年7月3日	6月17日	300		本殿 拜殿	泊居郡泊居町名寄村大字智来 字智来	(兼 社掌 小野文八)
98 大泊	無格社 小原神社	天照皇大神	1931(S6)年11月14日	8月5日	1,197		本殿 拜殿	留多加郡留多加町大字川西字小原	(兼 社掌 広富藤藏)
99 大泊	無格社 平野神社	天照皇大神	1931(S6)年11月14日	7月20日	828		本殿 拜殿 社務所	留多加郡留多加町大字河東 字南平野	(兼 社掌 広富藤藏)
100 泊居	無格社 追手神社	天照皇大神	1931(S6)年11月19日	7月15日	1,000		本殿 拜殿	野田郡泊居町大字追手字追手 字上能登呂	(兼 社掌 石塚安雄)
101 真岡	無格社 大國神社	大國主命	1931(S6)年11月27日	8月1日	1,000		本殿 拜殿	野田郡小能登呂村大字上能登呂	(兼 社掌 石塚安雄)
102 大泊	無格社 皆岸神社	大國主命	1931(S6)年12月9日	8月2日	1,000		本殿 拜殿	富内郡富内村大字喜美内字皆岸	(兼 社掌 山田信藏)
103 豊栄	無格社 真縫神社	大國魂命 大己貴命 少彦名命	1932(S7)年11月11日 創建年 1914(T3)年9月	7月30日	900	120	本殿 拜殿 渡殿	栄浜郡白糠村大字真縫三十六番地	(社掌)坂上龍八
104 大泊	無格社 浜路神社	事代主命 天照皇大神 春日大神	1933(S8)年12月25日	7月23日	1,000		本殿 拜殿 向拜	留多加郡留多加町大字河東字浜路	(兼 社掌 広富藤藏)
105 元泊	無格社 程保神社	天照皇大神	1933(S8)年2月20日 創建年 1910(M43)年8月15日	7月21日	1,255		本殿 拜殿	元泊郡元泊村大字程保字程保	(兼 社掌 北垣頭二)
106 元泊	無格社 帆寄稲荷神社	稲荷大神	1933(S8)年5月6日	8月5日	900		本殿 拜殿	元泊郡帆寄村大字馬群澤字馬群澤	(兼 社掌 小野文八)
107 豊栄	無格社 川北神社	天照皇大神	1933(S8)年6月15日	7月15日	1,000		本殿 拜殿	栄浜郡落合町字川北	(兼 社掌 小野文八)
108 真岡	無格社 北沢八幡神社	品陀和氣命	1934(S9)年3月12日	8月15日	1,000		本殿 拜殿	野田郡野田町大字野田字北沢	(兼 社掌 小野文八)

支庁名	神社名	祭神	創立年	例祭日	境内地	氏子数	神殿等	鎮座地	職員等
109 真岡	無格社 瑞穂妙眞神社	天御中主神	1934(S9)年6月11日	7月22日	1,800		本殿 拝殿	真岡郡清水村大字二股字瑞穂	(兼 社掌 山田信義)
110 大泊	無格社 新場神社	天照皇大神 大國主命 倉稻魂神	1934(S9)年10月24日	8月20日	1,000		本殿 拝殿	大泊郡千歳村大字貝塚字新場	
111 豊栄	指定護国 榊太護国神社	西久保靈一郎命 他六三三柱	1935(S10)年9月3日 創立年 1915(T4)年 1908(M41)年7月12日 豊原神社境内子ノ 招魂祭ニ始マル	7月7日	6,000		本拝殿 社務所	豊原市大字豊原 字南三線一六番地	(兼 社司 大島乙丸 受持神官 斎藤富士男)
112 元泊	無格社 大正神社	天照皇大神 大國主命 月読命	1936(S11)年11月27日					元泊郡帆霧村大字馬群澤	
113 泊居	無格社 名寄神社	八幡大神 三吉大神 稲荷大明神	1937(S12)年1月14日					泊居郡名寄村大字名寄	
114 大泊	無格社 利良神社	事代主命 金刀比羅大神	1937(S12)年5月21日					留多加郡三郷村大字多蘭内字利良	
115 真岡	無格社 広地神社	大綿津見神	1937(S12)年6月18日					真岡郡広地村大字広地	
116 豊栄	無格社 小田寒神社	天照皇大神 豊受大神	1937(S12)年7月14日					栄浜郡栄浜村大字小田寒	
117 大泊	無格社 遠淵沢神社	大國主命 事代主命 御食津神 嘗田別尊 市村島姫命	1937(S12)年8月16日					長浜郡遠淵村大字遠淵字遠淵沢	(兼 社掌 山田信義)
118 大泊	無格社 礼塔神社 (マモ)	事代主命	1937(S12)年8月26日					長浜郡知床村大字内知床 字礼塔字遠淵字遠淵沢	(兼 社掌 山田信義)
119 真岡	無格社 逢坂神社	豊受大神 天照皇大神	1937(S12)年10月27日					真岡郡清水村大字逢坂	
120 真岡	無格社 二股神社	豊受稲荷大神	1937(S12)年12月20日					真岡郡清水村大字二股	
121 大泊	無格社 知志谷神社	大國主命	1938(S13)年4月25日					留多加郡穂登呂村大字知志谷	
122 元泊	無格社 八幡神社	嘗田別尊 足仲彦尊 氣長足姫命	1938(S13)年8月12日					元泊郡帆霧村大字馬群澤字仲馬群澤	
123 元泊	崇敬社 三吉神社	三吉大神	創建年 1927(S2)年8月	8月17日				元泊郡知取町吉川高台	(奥山スミコ)
124 大泊	無格社 胡蝶前神社		1935(S10)年以降創立						(兼 社掌 山田信義)
125 大泊	無格社 中里神社		1935(S10)年以降創立						(兼 社掌 山田信義)
126 泊居	無格社 橋路神社		1935(S10)年以降創立					名好郡橋路町	社掌 工藤徳一
127 泊居	恵須取八幡神社							名好郡恵須取町	
128 敷香	無格社 上敷香神社	嘗田別尊						敷香郡敷香町	社掌 古川五郎

※本表は、山田信義が1935年に作成した『榊太神社一覽』を基本として、佐藤弘毅が作成した支庁別神社一覽（「戦前の海外神社一覽（一）榊太・千島・台湾・南洋一」）、をもとに、中島が作成したものである。その際、神殿等の坪数を省くなど、若干の改変を行った。  
なお、境内地の単位は坪、氏子数のそれは戸である。



図2 サハリン神社跡地調査ルート&日程



北海道札幌発 10/8


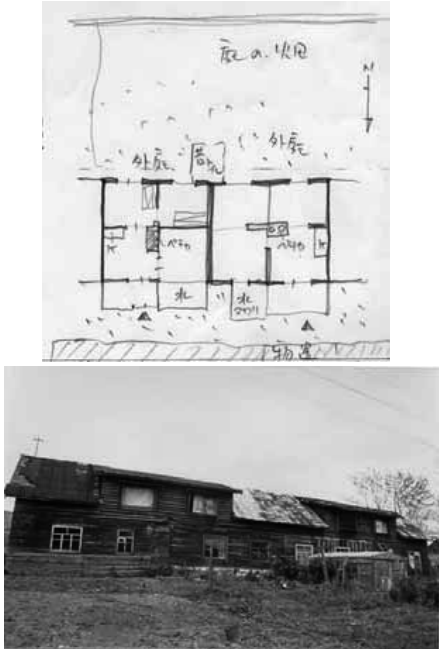
函館着 10/13



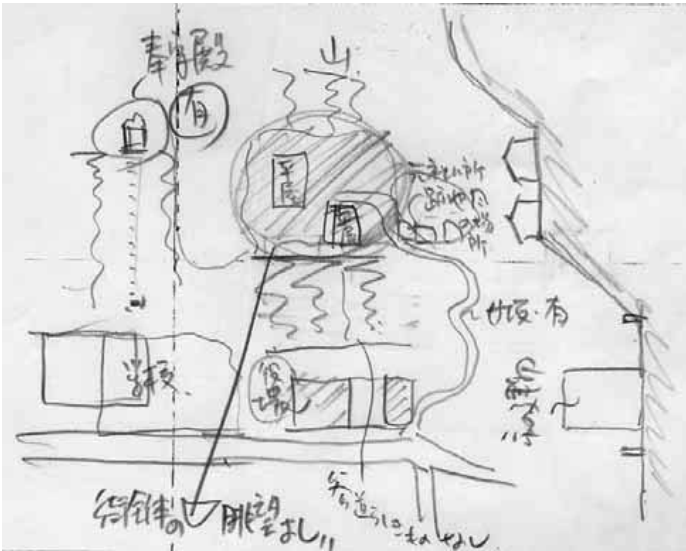



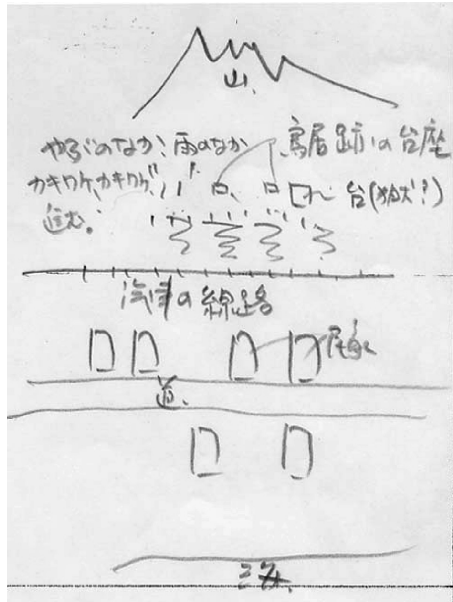
『樺太島瞰図』（戦前年代，発行所不明）



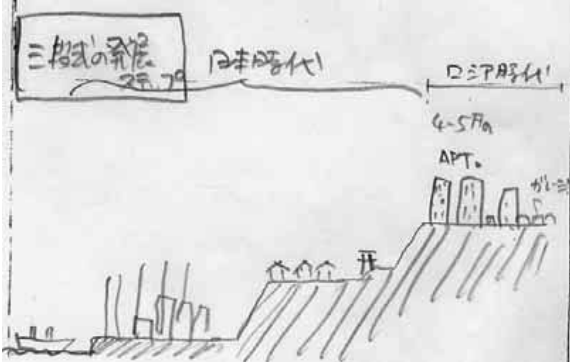

海外神社調査表		NO,サー 002	
1. 旧名称	泊居神社(無格社)	a. 現名称	無
2. 旧所在地	泊居郡泊居町大字泊居	b. 現所在地	トマリ
3. 創立年沿革	創立年 大正10年11月8日 例祭日 7月15日 祭神 天照皇大神 倉稲魂命 大山祇神	c. 戦後の沿革	
4. 建築内容	本殿 9T 本殿 拝殿 42T 付属舎 渡殿 9T 鳥居、塔 社務所 50T 祝詞舎 12T	d. 現建築 存続 有・無 新築 (用途、階層、構造)	無 基壇の一部、2本の鳥居、忠魂碑、戦勝記念碑
5. 旧配置、境内、周辺環境 境内地 2921坪		e. 現配置、境内、周辺環境	
		<p>廃墟・山・草ぼうぼう</p> 	
6. ヒアリング 旧王子製紙工場 現部長:工場は現在、地域の暖房供給のみに使用、94年までは稼動していた 神社についてはその経緯は知らないが工場事務所には古い写真がある			
7. 所見 海に向かっての眺めは素晴らしく、右手山に登ると泊居の街は一望に眺めることが出来、工場はすぐ眼下に川を挟んである。工場も廃墟に等しいが、わずかに1本のエントツから煙が出る。海側から見る鳥居は実に印象的である。			
8. 資料内容			
・写真	SF199(遠景)~SF214 SF214~217 SF273~276 戦勝記念碑 藤田撮影		
・絵はがき	SF277~SF364(境内+忠魂碑) SF375~SF384(鳥居)		
・図面			
・地図			
・その他(本)	中島作成リスト		
調査年月	2003年 10月 09日	曇	調査者氏名 富井、中島、藤田、大里、孫


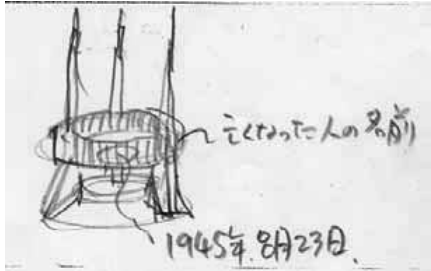
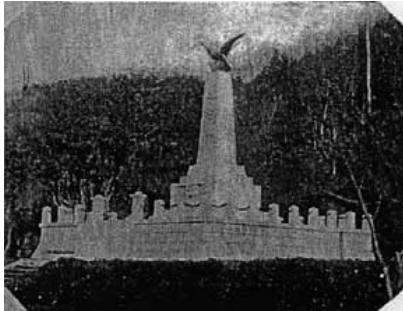
海外神社調査表		NO,サ一 003	
1. 旧名称	追手神社(無格社)	a. 現名称	
2. 旧所在地	泊居郡泊居町大字追手字下追手	b. 現所在地	ノボーセレボ
3. 創立年沿革	創立年 昭和6年11月19日 例祭日 7月15日 祭神 天照皇大神	c. 戦後の沿革	
4. 建築内容	本殿 2.25T 本殿 12T 付属舎 鳥居、塔	d. 現建築 存続 有・無 新築 (用途、階層、構造)	無 廃墟、燈籠の台座1基
5. 旧配置、境内、周辺環境 境内地1000坪		e. 現配置、境内、周辺環境	
			
6. ヒアリング サマリン氏の案内 追手には小学校があって、海から見て左手に神社、右手に奉安殿(残存)。 奉安殿奥の山の裾野に墓地があった。車にて近づけず断念。			
7. 所見 神社跡地はしっかりと確定できなかったが、燈籠の台座は一つ発見。 草ぼうぼうの中から追手より、海の方の眺望よし。 小学校をはさんで左右に神社、奉安殿、遠くに共同の墓地と1つの材の構造が見えてくる。			
8. 資料内容			
・写真	SF371~374 SF395~405 SF411~445(以上奉安殿) 藤田撮影		
・絵はがき	SF451~SF533(追手神社跡の石) SF563~575(遠景全体)		
・図面			
・地図			
・その他(本)			
調査年月	2003年 10月 09日	曇	調査者氏名 富井、中島、藤田、大里、孫

海外神社調査表		NO,サ- 004	
1. 旧名称	稲荷神社	a. 現名称	
2. 旧所在地	野田郡野田町	b. 現所在地	チエホーフ
3. 創立年沿革	佐藤の表にはないので詳細は不明。 『樺太市街地図』に王子製糸野田工場の社宅群の上方に稲荷神社の存在が記されている。	c. 戦後の沿革	荒地・牧草地
4. 建築内容 本殿 付属舎 鳥居、塔		d. 現建築 存続 有・無 新築 (用途、階層、構造)	無 燈籠台座1基(放置)
5. 旧配置、境内、周辺環境		e. 現配置、境内、周辺環境	
			
6. ヒアリング 王子製紙野田工場もペレストロイカ以後閉鎖。社宅一軒は富井のみ、もう一軒は全員見学。田の字平面の中央にペチカを据えたスタイル。非常に生活は貧しく見える。家具らしき家具なし。			
7. 所見 野田王子工場すぐ横の丘上にあり。右下には社宅群が当時は建っていたことが、地図(イメージ図)から読み取れる。社宅はまだ三棟現存するが、住んでいるのは一棟のみ。かなり荒れている。			
8. 資料内容			
・写真	SF539~SF562 SF547~SF562(稲荷神社跡)	SF599~602	SF583~584(社宅外観) 藤田撮影
・絵はがき	SF634~635 SF603~621(社宅外観)		
・図面			
・地図			
・その他(本)			
調査年月	2003年 10月 09日 雨	調査者氏名	富井、中島、藤田、大里、孫


海外神社調査表		NO,サ一 005	
1. 旧名称	野田神社(無格社)	a. 現名称	
2. 旧所在地	野田郡野田町大字野田字西三条区画外	b. 現所在地	チエホーフ
3. 創立年沿革	創立年 大正12年8月20日 創建年 明治39年7月1日 例祭日 7月15日 7月16日 氏子戸数 3000 祭神 天照皇大神	c. 戦後の沿革	
4. 建築内容	神明造 本殿 2.25T 付属舎 20T 鳥居、塔 渡殿 8T 社務所 10T 神輿殿 5T	d. 現建築 存続 有・無 新築 (用途、階層、構造)	無 荒地 住宅 二棟有り 一棟…無人 (平屋) 一棟…不在
5. 旧配置、境内、周辺環境 境内地 1440		e. 現配置、境内、周辺環境	
 			
6. ヒアリング			
7. 所見 サマリン氏の所蔵 写真を見ると現存する奉安殿と並んで、山の中腹に神社建物が見えるが、今はそこに平屋二棟が建つ。参道跡を時間をかけて調べるが痕跡なし。			
8. 資料内容			
・写真	SF654～666(神社外) SF689～690(遠景) SF713～724 SF589～598 SF622～654(奉安殿) SF670～688 藤田撮影		
・絵はがき	遠景あり 目で見る樺太時代 I-P80		
・図面			
・地図			
・その他(本)	中島作成リスト		
調査年月	2003年 10月 09日	雨	調査者氏名 富井、中島、藤田、大里、孫

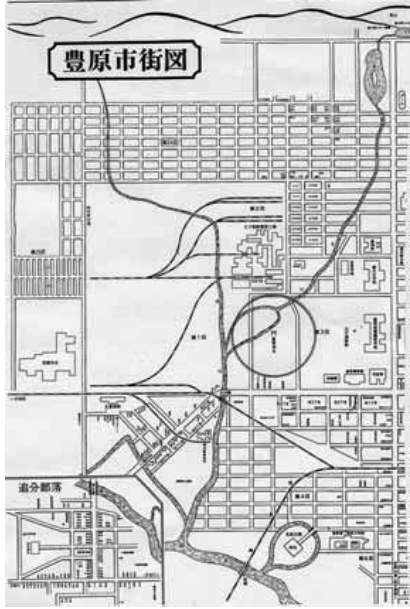

海外神社調査表		NO,サー 007	
1. 旧名称	蘭泊神社(無格社)	a. 現名称	
2. 旧所在地	真岡郡蘭泊村大字蘭泊村字蘭泊159-1	b. 現所在地	ヤプロチニ
3. 創立沿革	創立年 大正11年12月25日 創建年 明治40年6月16日 例祭日 6月15日 氏子戸数 450 祭神 大物主之大神	c. 戦後の沿革	
4. 建築内容	流れ造 本殿 1.5T                      神饌所 3.5T 付属舎 20T                      神輿殿 3T 鳥居、塔 渡殿 4T 社務所 27T 手水舎 10T	d. 現建築 存続 有・無 新築 (用途、階層、構造)	無 鳥居の台座 2つと狛犬(?)の台座 1つ
5. 旧配置、境内、周辺環境 境内地 1000坪		e. 現配置、境内、周辺環境	
			
6. ヒアリング			
7. 所見		線路端をかけたのぼり、草ぼうぼうの中、進みようやく狛犬(?)の台座と鳥居の台を確認する。蘭泊の村地図(当時)二葉あるが、そのどちらにもない。	
8. 資料内容			
・写真	SF727~736 藤田撮影		
・絵はがき			
・図面			
・地図	市街地図、蘭泊二葉あるが該当しない。		
・その他(本)	中島作成リスト		
調査年月	2003年 10月 09日	雨	調査者氏名 富井、中島、藤田、大里、孫

海外神社調査表		NO,サー 009	
1. 旧名称	県社 真岡神社	a. 現名称	サハリン郵船
2. 旧所在地	真岡郡真岡町大字真岡字山手町4丁目区画	b. 現所在地	ホルムスク
3. 創立年沿革	創立年 明治43年8月31日 創建年 同上 列格年 昭和9年5月10日 例祭日 7月10日 氏子戸数 8185 祭神 天照皇大神 豊受姫大神	c. 戦後の沿革	1972年建設
4. 建築内容	神明造 本殿 23.75T 付属舎 拝殿 66.247T 鳥居、塔 渡殿 21T 社務所 22.1T	d. 現建築	無 1. 階段(二層分) 2. 下部石積擁壁 3. 燈籠の台座 4. 手水鉢 (用途、階層、構造) 会社 5層 コンクリート
5. 旧配置、境内、周辺環境		e. 現配置、境内、周辺環境	
境内地 2559坪  		 	
6. ヒアリング	真岡は1945年ソ連軍の上陸作戦が大規模に行われたため、神社もそのとき破壊した(サマリ)。神社本殿は現郵船建物より、うしろに位置していたこと。(ガイドー会社人) しかし、そのスペースは現状では小さすぎる。日本時代の建物は工場とわずかの社宅群が残るだけ。旧境内(外)に観音仏台が1個残存。		
7. 所見	真岡の街は当時2段階のレベルになっており、旧市街地の上の二段目の眺望のよい場所に神社・記念碑・奉安殿・学校が位置していた。今は神社敷地は(国営)会社敷地、記念碑のあった場所はロシアの戦勝30年記念碑、公園、奉安殿、学校敷地はそのまま学校や団地に変容している。二段目団地は眺望よく、公的なものが建てられ、戦後第三の台地がロシアの手によって開発された。		
8. 資料内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真 SF773～792～835 藤田撮影 マジノ博物館にロシア艦隊より見た真岡の1945年の写真あり。</li> <li>・絵はがき</li> <li>・図面</li> <li>・地図</li> <li>・その他(本) 中島作成リスト</li> </ul>		
調査年月	2003年 10月 10日	雨	調査者氏名 富井、中島、藤田、大里、孫

海外神社調査表		NO,サー 010	
1. 旧名称	(真岡)戦勝記念碑	a. 現名称	ホルムスクの戦いで亡くなった人のための記念碑
2. 旧所在地	真岡山手町	b. 現所在地	ホルムスク
3. 創立年沿革		c. 戦後の沿革	ソ連が1975年建立(戦勝30年記念)
4. 建築内容 本殿 付属舎 鳥居、塔		d. 現建築 存続 有・無 新築 (用途、階層、構造)	無 コンクリート(?)
5. 旧配置、境内、周辺環境		e. 現配置、境内、周辺環境	
			
			
6. ヒアリング			
7. 所見 日露戦争の戦勝記念碑跡の同じ場所、位置に、ソ連軍の戦勝記念碑が立っている!!			
8. 資料内容			
・写真	SF839~843~846 藤田撮影		
・絵はがき	旧絵はがき有り		
・図面			
・地図			
・その他(本)			
調査年月	2003年 10月 10日	調査者氏名	富井、中島、藤田、大里、孫



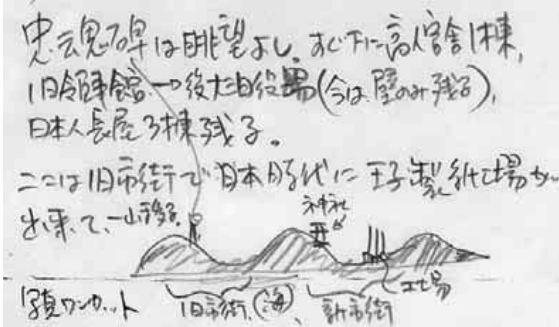



海外神社調査表		NO,サー 013	
1. 旧名称	北辰神社(無格社)	a. 現名称	
2. 旧所在地	豊原町大字北豊原字北二線西一番地	b. 現所在地	ユジノ・サハリンスク
3. 創立年沿革	創立年 大正13年2月2日 例祭日 6月25日 祭神 天御中主神	c. 戦後の沿革	1960年代に建設
4. 建築内容	流れ造 本殿 1.5T 拝殿 24T 付属舎 鳥居、塔 幣殿 4T 向拝 2T 社務所 30.5T 手水舎 1T	d. 現建築 存続 有・無 新築 (用途、階層、構造)	無 5階建てアパート団地、駐車場 (コンクリート造)
5. 旧配置、境内、周辺環境 境内地 1226坪		e. 現配置、境内、周辺環境	
			
6. ヒアリング (サマリン→長老) 自分はよく子供のころ神社跡地の公園をまわっている川で水遊びをしたが、1960年代に全て川は埋め立てられ、現在のアパートが建設されたとのこと。			
7. 所見 境内周囲を川で囲まれた素晴らしい形態に魅せられ、かつ北斗七星を祭る神社として楽しみにしていたが、全くその跡かたもなし。残念。当時のイメージ図はよく描かれていたが、小学校は現在駐車場、線路はそのまま本流そのまま。			
8. 資料内容			
・写真			
・絵はがき			
・図面			
・地図			
・その他(本)		中島作成リスト	
調査年月	2003年 10月 10日 曇	調査者氏名	富井、中島、藤田、大里、孫


海外神社調査表		NO,サー 015	
1. 旧名称	県社 豊原神社	a. 現名称	
2. 旧所在地	豊原町大字豊原字北二線東四番地ノ乙 王子製紙工場横	b. 現所在地	ユジノ・サハリンスク
3. 創立年沿革	創立年 明治43年8月31日 創建年 明治41年7月11日 列格年 昭和3年11月5日 例祭日 6月16日 祭神 天照皇大神 豊受大神 明治天皇 昭憲皇太后	c. 戦後の沿革	現建築は件園 ↓ 数年前用途変更 死体の検死所
4. 建築内容	神明造 本殿 5.41T 付属舎 37.95T 鳥居、塔 社務所 59.25T 祝詞社 13.17T	d. 現建築 存続 有・無 新築 (用途、階層、構造)	無 大きな松の木とマロニエの木で跡地と判明 何かの礎石(?)らしきもの1個有 新築・コンクリート2階建
5. 旧配置、境内、周辺環境 境内地 5118坪		e. 現配置、境内、周辺環境	
			
6. ヒアリング サマリンより案内有り			
7. 所見			
8. 資料内容			
・写真	SF1054~1062 藤田撮影		
・絵はがき			
・図面			
・地図			
・その他(本)	中島作成リスト		
調査年月	2003年 10月 10日	量	調査者氏名 富井、中島、藤田、大里、孫

海外神社調査表		NO,サー 016	
1. 旧名称	指定護国 樺太護国神社	a. 現名称	ユジノサハリンスク市立病院
2. 旧所在地	豊原市大字南豊原字南3線16番地	b. 現所在地	ユジノ・サハリンスク
3. 創立沿革	創立年 昭和10年9月3日 創建年 大正4年(樺太招魂社、境内神社) 例祭日 7月7日 明治41年7月12日豊原神社境内での招魂祭に始まる祭神 西久保豊一郎命他653柱	c. 戦後の沿革	1948年壊す。(サマリン) 1960年代2階建現建物ができる。
4. 建築内容	本拝殿 70T 本殿 社務所 40T 付属舎 鳥居、塔	d. 現建築	無 基壇、階段、土台がよく残っている。また燈籠(?)の石台が1つ発見された。ウイルス系市立病院(2層コンクリート)
5. 旧配置、境内、周辺環境		e. 現配置、境内、周辺環境	
境内地 6000坪  		 	
6. ヒアリング			
7. 所見	境内の空間は物静かで、当時の神社の雰囲気そのまま今もある。前に建つ建物の後庭になっているからなおのことか。その病院がウイルス系の隔離病棟であるため一層、静粛な環境となっている。神社境内の雰囲気・最高に感じる!!		
8. 資料内容			
・写真	SF 1228~1525 藤田撮影		
・絵はがき			
・図面	サハリン実測図面有。		
・地図			
・その他(本)	中島作成リスト		
調査年月	2003年 10月 11日	調査者氏名	富井、中島、藤田、大里、孫

海外神社調査表		NO.サー017	
1. 旧名称	宮幣大社 樺太神社	a. 現名称	個人会社、事務所
2. 旧所在地	豊原市豊原町旭ヶ丘	b. 現所在地	ユジノ・サハリンスク
3. 創立年沿革	創立年 明治43年8月17日 列格年 同上 例祭日 8月23日 祭神 大国魂命、大己貴命、少彦名命	c. 戦後の沿革	1963年 共産党幹部用クラブ ↓ ベレストロイカ 1922年 HOTEL ↓ 2002年 個人会社事務所  ・1985年共産青年同盟 60年記念碑 ・35年戦争記念碑 ・ガガーリン広場(?) チェック必要
4. 建築内容	本殿 13.28T 本殿 拜殿 21T 付属舎 渡殿 19.65T 鳥居、塔 社務所 120T 祝詞舎 7.88T 手水舎 2.18T 神護所 16.5T	d. 現建築	有 宝物殿(コンクリート)校倉造 水場、燈明台(2つ)、燈籠(1つ転がっている) (用途、階層、構造) ・クラブ 3F建(コンクリート) ・スポーツ施設(サウナ、事務所)90年代、2層コンクリート
5. 旧配置、境内、周辺環境		e. 現配置、境内、周辺環境	
境内地 21.716坪			
 			
6. ヒアリング			
7. 所見 何段もあった石段はすべてなく、スロープでアプローチ。真白なクラブハウスが階段上にみえる。その奥には静肅な裏庭。いかにも境内の雰囲気。水汲みに来る人何人も見る。その上にコンクリートの校倉。中は今ガランドウで、ペンキの落書き。すばらしい紅葉。本殿の位置確定できない。社務所は今のスポーツ棟の位置か？旧神社通りより突き当たった場所は記念碑(35年戦争記念碑・ガガーリン・共産青年同盟の並木道)			
8. 資料内容			
・写真	SF 1063~1081+SF 1154~1156(入り口部分) SF 1122~1153(境内、倉) 藤田撮影		
・絵はがき	SF 1082~1121(参道) SF 1157~1188( " )		
・図面	SF 1209~1216( " )		
・地図			
・その他(本)	中島作成リスト		
調査年月	2003年 10月 11日	調査者氏名	富井、中島、藤田、大里、孫



海外神社調査表		NO.サ-020	
1. 旧名称	大泊 表忠碑	a. 現名称	
2. 旧所在地	大泊 旧市街地(神楽ヶ丘の一角)	b. 現所在地	コルサコフ
3. 創立年沿革		c. 戦後の沿革	
4. 建築内容 本殿 付属舎 鳥居、塔		d. 現建築 存続 有・無 新築 (用途、階層、構造)	無 基壇のみ 横に気象観測所の地震室(平屋・コンクリート) のみ現存
5. 旧配置、境内、周辺環境		e. 現配置、境内、周辺環境	
<p>史観碑は明望よし。北に高層官舎棟、 旧合衆館→後大泊役場(今は壁のみ残り)、 日本人長屋3棟残り。 ここは旧市街地の日本時代には王子製紙社場か 出来て、山形町</p>  		 	
6. ヒアリング			
7. 所見			
8. 資料内容			
・写真	9-① 藤田撮影		
・絵はがき	日本地理大系		
・図面			
・地図			
・その他(本)	絵(江戸時代)サマリン論文に(領事館有)		
調査年月	2003年 10月 12日	晴	調査者氏名 富井、中島、藤田、大里、孫

海外神社調査表		NO,サー022	
1. 旧名称	県社 蛭庭神社	a. 現名称	船舶カレッジ
2. 旧所在地	大泊郡大泊町大字大泊字本町西一条南三丁目	b. 現所在地	コルサコフ
3. 創立年沿革	創立年 大正3年8月14日 列格年 昭和5年7月5日 例祭日 8月10日 氏子区域 大泊・留多加・長浜・富内の四郡 参道部分は改造の可能性大(太鼓橋) 祭神 大国主命 事代主命 御食津神 菅田別尊 市杵島姫命	c. 戦後の沿革	
4. 建築内容	神明造 本殿 3.19T 付属舎 拝殿 15T 拝殿 1.42T 社務所 33.83T 手水舎 2.31T 中門 0.78T	d. 現建築 存続 有・無 新築 (用途、階層、構造)	無 階段が最もよく残っていた。 手水鉢、礎石(鳥居の?)
5. 旧配置、境内、周辺環境 境内地3000坪		e. 現配置、境内、周辺環境	
 		 	
6. ヒアリング			
7. 所見	特徴ある石段がきちっと残っている。初めの写真には太鼓橋がかかっていたが、後の写真にはみられず、川を埋めたのか(?)。鳥居の基礎石らしきものが道のこの部分に見える。この高い位置から一度下って又、のぼったのか。こちらの道は海に向かって下っていくと栄通りに達するメイン道路。谷を挟んで神社を見るのも希である。		
8. 資料内容			
・写真	10-⑤+⑥ 藤田撮影		
・絵はがき			
・図面			
・地図			
・その他(本)	中島作成シート 目でみる樺太時代ⅡP.104 県社蛭庭神社 記念大砲		
調査年月	2003年 10月 12日		調査者氏名 富井、中島、藤田、大里、孫

海外神社調査表		NO,サ-024	
1. 旧名称	大山祇神社(無格社)	a. 現名称	
2. 旧所在地	豊原郡川上村大字三井字川上炭山	b. 現所在地	ユジノ・サハリンスク郊外
3. 創立年沿革	創立年 大正10年5月17日 例祭日 6月22日 氏子戸数 600 祭神 大山祇命	c. 戦後の沿革	
4. 建築内容	入母屋造 本殿 3T 付属舎 鳥居、塔	d. 現建築 存続 有・無 新築 (用途、階層、構造)	無 コンクリート鳥居の足一本のみ立つ、附近に他の部分の残骸が転がっている。
5. 旧配置、境内、周辺環境 境内地 980坪		e. 現配置、境内、周辺環境	
			
6. ヒアリング 旧三井炭鉱 現今まで操業していたが昨今休鉱。			
7. 所見 工場裏手の学校グラウンドの奥の小高い山上に立つ。参道は崩壊しているが踏跡は残る。登りきった所に鳥居の片方の足がポツと建っている。社殿跡は一部畑、一部未利用。かつて、学校グラウンドの入口にも、鳥居が1本立っていた。			
8. 資料内容			
・写真	8-①~8-⑪ 藤田撮影		
・絵はがき	目でみる樺太時代Ⅱ		
・図面			
・地図			
・その他(本)			
調査年月	2003年 10月 11日	調査者氏名	藤田、中島